

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立朝明高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「社会に貢献できる人間へ ―自分づくりの三年間―」をテーマとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」の教育指針のもと、生徒が成長する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会人基礎力」を身につけ、礼儀を重んじ、社会規範の遵守・挨拶の励行・正しい言葉遣いができている。 ・目標を持って学校生活を送ることができ、進路実現を果たそうとしている。 ・学習習慣が定着し、基礎的・基本的な知識・技能とその活用能力を身につけている。 ・他者とコミュニケーションを図り、協働する力が具わっている。 ・自己肯定感や自尊感情を持ち、人権尊重の意識や態度を身につけ、自分と他者の命と人権を大切にする「豊かな心」を具えている。 ・地域福祉に貢献できる知識・技能と行動力を身につけている。(ふくし科)
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上を図るため、ICTを活用して主体的・対話的で深い学びを目指した「授業改善」に取り組んでいる。 ・各教科や分掌において、「社会人基礎力」を育むため、「考える力」や「判断する力」、「表現する力」など具体的な教育的働きかけを行っている。 ・教育相談及び特別支援教育等の知識を活かして、個に応じた指導と支援を行うことができる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手・要求・期待	<p>生徒：自己肯定感や自尊感情が育まれ、自らの成長を実感して、進路希望が実現する。</p> <p>保護者：安全・安心して学べる学校であり、心身ともに健全な子どもの育成が図られている。</p> <p>地域社会：卒業までの粘り強い支援と、卒業後、社会を生き抜く力をつけている。</p> <p>進路先：社会人基礎力をはじめとする人間力の向上に係る教育が行われている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校：発達段階に応じた学びの連携と協力。 ・保護者：学ぶ力・心の力・体の力の育成と希望する進路の実現。 ・地域社会：地域経済や自治活動の中心となる人材の育成。 ・卒業生：母校に誇りを持ち、同窓生としての情報交換の場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校：継続的・体系的なキャリア教育に係る連携。 ・保護者：社会の一構成員としての自覚確立のための連携。 ・地域社会：生徒支援及び社会人マナー向上の支援。 ・卒業生：在校生の進路実現、学校の教育環境の整備に対する情報提供や人的・経済的な支援。

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学校への進学者について、上級学校卒業後の進路選択が重要である。進学後のその先の進路まで見通せるようなキャリア教育の必要性を感じる。就職も含め、目的意識をもって進路選択ができるようなキャリア教育を推進していただきたい。 ・特別な支援を要する生徒への支援・指導体制の構築に向けた朝明高校の取組に魅力を感じる。また、ふくし科による地域行事での手話歌発表など地域に根差した取組も大変すばらしい。今後も地域に根差した活動の継続、発展を期待する。また、朝明高校の素晴らしい取組を積極的に発信して志願者増に努めていただきたい。 ・SNS等の不適切な動画等が社会問題となる中、ネットやSNSの適切な使用についての指導の必要性が増している。生徒への啓発や指導を充実していただきたい。 ・心のケアが必要な生徒が増加している。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家による支援を一層充実させていただきたい。 ・地域行事への参画、施設等での実習やボランティアなど、様々な学びの機会を提供していただいていることが評価できる。そのような活動に参加している生徒は明確な目的意識を持っており、結果として社会性も身につけている。今後もこのような学びの機会を一層充実させていただくことを期待する。 				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">教育活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・挨拶が身についている生徒が増えてきている。 ・自己肯定感や自尊感情が弱く、自分の生き方や目標を考えられない生徒が多い。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒もいる。 ・主体的・対話的で深い学びを目指して授業力の向上を図るとともに、ICT 活用の推進や観点別評価など新しい学習指導要領に基づく教育活動を推進する必要がある。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">学校運営等</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の良さを伸ばし、苦手意識を克服できるよう支援する体制が整っている。 ・生徒や保護者、地域などの意見や要望を把握し、教員同士が対話を進めながら問題を解決し、課題の実現に向けての行動を組織的に行うことができる。さらに成果をあげるために、「情報の共有」や「経験の伝承」を進めていくための場を充実させる必要がある。 ・保護者や地域と一層の連携を図るとともに、学校の様々な取組の様子や生徒の活動の様子など、朝明高校の魅力を外部に積極的に発信する必要がある。 </td> </tr> </table>	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・挨拶が身についている生徒が増えてきている。 ・自己肯定感や自尊感情が弱く、自分の生き方や目標を考えられない生徒が多い。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒もいる。 ・主体的・対話的で深い学びを目指して授業力の向上を図るとともに、ICT 活用の推進や観点別評価など新しい学習指導要領に基づく教育活動を推進する必要がある。 	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の良さを伸ばし、苦手意識を克服できるよう支援する体制が整っている。 ・生徒や保護者、地域などの意見や要望を把握し、教員同士が対話を進めながら問題を解決し、課題の実現に向けての行動を組織的に行うことができる。さらに成果をあげるために、「情報の共有」や「経験の伝承」を進めていくための場を充実させる必要がある。 ・保護者や地域と一層の連携を図るとともに、学校の様々な取組の様子や生徒の活動の様子など、朝明高校の魅力を外部に積極的に発信する必要がある。
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・挨拶が身についている生徒が増えてきている。 ・自己肯定感や自尊感情が弱く、自分の生き方や目標を考えられない生徒が多い。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒もいる。 ・主体的・対話的で深い学びを目指して授業力の向上を図るとともに、ICT 活用の推進や観点別評価など新しい学習指導要領に基づく教育活動を推進する必要がある。 				
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の良さを伸ばし、苦手意識を克服できるよう支援する体制が整っている。 ・生徒や保護者、地域などの意見や要望を把握し、教員同士が対話を進めながら問題を解決し、課題の実現に向けての行動を組織的に行うことができる。さらに成果をあげるために、「情報の共有」や「経験の伝承」を進めていくための場を充実させる必要がある。 ・保護者や地域と一層の連携を図るとともに、学校の様々な取組の様子や生徒の活動の様子など、朝明高校の魅力を外部に積極的に発信する必要がある。 				

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に貢献できる人間となるため、基礎的な知識や思考力・判断力、行動力の育成に向けた教育活動を実施します。 ・地元企業等と連携し、勤労観や職業観を身につけるためのインターンシップを2年生で実施します。 ・すべての生徒が自己肯定感や自尊感情を高められるよう教育活動全体を通じて指導します。 ・地域の事業所等と連携した介護実習を実施したり、福祉や介護について専門的な知識やスキルを身につけたりします。(ふくし科) ・介護福祉士国家資格取得率 100%を目指します。(ふくし科、介護福祉コース)
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が自己の教育力の向上を目指し、授業研究・公開授業・指導法の改善を積極的に行い、学校組織としての教育力を高められるよう「授業改善」の取組を進める。 ・規範意識の醸成、基本的な生活習慣の確立を基盤とした生徒の指導・支援を徹底し、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ・教職員が「やりがい」や「満足感」を感じながら生き生きと働くことができるよう、「はたらき方改革」の取組を推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績 (①②③…)

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等 (①②③…)

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【学習指導】	<p>(1)わかる授業の徹底、教員の授業力の向上に向けた取組の推進</p> <p>①授業見学週間の実施と振り返りの実施。</p> <p>②すべての教員が一人一台端末や ICT を活用した教育活動の推進に取り組む。</p> <p>(2)安心して学べるクラス作りの構築</p> <p>①授業に向かう環境づくりの徹底</p> <p>②面談週間の設置等、生徒へのきめ細やかな面談や相談の機会の充実</p> <p>③生徒の支援に向けた情報共有の強化</p> <p>(3)福祉関係の資格・検定の取得促進(ふくし科)</p> <p>①介護福祉士国家試験(3年生介護福祉コース6人)及び介護職員初任者研修修了(2年生希望者)合格 100%</p> <p>②社会福祉・介護福祉検定4級～1級(2・3年生希望者)合格 50%</p> <p>(4)異校種や地域との交流を実施、ふくし科の魅力や福祉について伝える。</p> <p>①ふくし科の HP 更新数を増加し、生徒とインスタグラムを作成し魅力を発信する。</p> <p>②施設職員の協力を仰ぎ介護の知識や技術を地域に伝える。</p>	<p>(1)①校長による授業見学のみ実施。授業見学週間は未実施。②常勤職員の多くは ICT を何らかの形で活用するも、非常勤を含めたすべての教員が実施できたわけではない。</p> <p>(2)①例年通り席替えや座席の工夫、教室の整理整頓の実施のみ。</p> <p>②学期当初に計画通り実施。必要時には随時面談。</p> <p>③非常勤を含め必要な生徒情報共有、支援対象生徒見守り。</p> <p>(3)①全員合格(100%)、</p> <p>②合格率:4級(3/8 38%)、3級(7/41 17%)、1級(5/8 63%)</p> <p>合わせて15/57(26%)未達成。</p> <p>(4)①HP掲載回数は12/57。ふくし科インスタグラムを開設して40回アップ。②小・中学校への出前授業や福祉施設や地域敬老慰安会、特別支援学校等と交流実施。</p>	※
【規範意識】	<p>(1)明るい挨拶、生活規範、授業規律の確立、服装マナー・授業マナー・ベル席・交通マナーの徹底</p> <p>①生徒アンケート(達成度 97%以上)</p> <p>(2)基本的な生活習慣の確立</p> <p>①遅刻・早退・欠席数の減少(昨年度比 10%以上減)</p> <p>(3)環境美化への意識向上、率先した美化活動</p> <p>①美化委員等を活用した環境美化活動の取組の実施</p> <p>①生徒アンケート(達成度 90%以上)</p>	<p>(1)①挨拶 86.3(86.2%)、授業規律 92.3(94.4%)、服装 91.4(94.1%)、交通 90.8(91.6%) で未達成。</p> <p>(2)①今年度より集計していない。(業務削減の観点から)</p> <p>(3)①美化委員による清掃活動チェック実施。</p> <p>①85.7(87.6%)で未達成</p>	

	<p>(4)生徒同士で指摘し合い、学び合い互いを高められる関係性を教職員が働きかける。</p> <p>①生徒の得意なことや頑張っていることを発表できる場を作り、褒める。</p> <p>②生徒を指導する際は生徒に理解をさせ、その後の行動が変わるように働きかけ、生徒の変容を評価する。</p> <p>③クラスのグループや座席を工夫し、会話の機会を増やしたり達成感を感じさせたりする。</p> <p>④生徒の個性を尊重し、幅広い見方・考え方、協働する力を身につけさせる。</p>	<p>①高校生活入門講座でコースや部活動紹介、手話歌の披露。各クラス役員を司会や行事準備を協力させる。</p> <p>②校長訓戒数 26 人。ほとんどが再度訓戒指導なし。校長が集会でその旨生徒に伝えて評価。</p> <p>③例年通りの取り組みを各学年で実施。</p> <p>④全ての教育活動を通じて先生方が取り組み続けており、今後とも継続していく。</p>	
【豊かな心を育む教育】	<p>(1)命の大切さを理解したうえで、自分の人権や他者の人権を守り、人を思いやることのできる生徒を育てる</p> <p>①人権意識を高める活動の実施</p> <p>②スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年間 34 日)</p> <p>(2)教員が願いや思いを伝える場面を増やす</p> <p>①人権講演会(年間 1 回)</p> <p>②人権LHR(各学期 1 回)の開催</p>	<p>(1)①いじめ防止月間にピンクシャツ運動(4月) ②生徒・保護者・教員の相談に加え、若手教員との相談会や学校保健委員会に参加。</p> <p>(2)①人権講演会(外国人の人権問題、12 月) ②人権LHR(各学年・各学期に実施)</p>	※
【キャリア教育】	<p>(1)「特別な支援を要する生徒」や「日本語指導が必要な生徒」への指導と進路実現</p> <p>①キャリア学習支援員やハローワークとの連携を密にして、支援体制を整える。</p> <p>②3年生では面接練習を中心に、個人のスキルがあがるよう、必要に応じて面談を行う。</p> <p>③卒業生の進路先と連携をとり、卒業後も引き続き支援を行う。</p> <p>(2)自分の将来に価値を見出し、目標を持たせるとともに、課題に対し考え、行動できるようにする</p> <p>①インターンシップの実施(2 学年)</p> <p>②キャリア教育にかかわる行事の実施(年間 10 回以上)</p> <p>(3)生徒が活躍できる場のさらなる創出</p> <p>①3年生進路係りの活躍の場を設ける。</p>	<p>(1)①進路LHR・進路ガイダンス・日常的な指導を継続的に実施。1・2年生に心理検査実施。生徒の強み・弱みを把握。</p> <p>②5月下旬から外部人材・全教職員による系統的な面接指導実施</p> <p>③キャリア学習支援員・教職員による企業訪問等を実施。14 人の離職が判明。ほとんどが再就職済。</p> <p>(2)①インターンシップ実施(11 月) ②進路講話・進路ガイダンス等の実施(13 回)</p> <p>(3)①今年度は十分に活用できていないので次年度に持ち越し。</p>	◎ ※
【保健管理】	<p>(1)自らの健康のために適切な行動をとれる力を養う</p> <p>①歯と口腔の健康づくりの充実、啓発活動の実施</p> <p>①要治療者の受診率 20%以上(昨年度受診率 11%)</p>	<p>(1)①全健診の要治療者に受診勧奨。保健だよりも掲載。受診率は 10%。家庭環境も多様で受診に至ることが難しいケースあり。</p>	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に頑張りたい生徒が意欲的に学習生活を送れるようにするための働きかけ。 ・できていることを自己肯定感が高まることにつながる結果を生徒に還元する。 ・生徒自らが考え行動できるような取り組みを低学年から計画的に実施する。 ・支援の把握の困難さ。また教員と生徒・保護者との困り感のギャップによる意思疎通。 ・人間関係を上手く構築することが苦手な生徒への適切な働きかけ。 			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
【組織運営】	<p>(1)学年・分掌間での情報共有の強化</p> <p>①主任会の定期的開催による情報共有</p> <p>②日常的な打ち合わせ、学年・分掌の情報交換会等の実施</p>	<p>(1)①②月曜 6 限目に主任会を実施。学校運営及び生徒情報共有を目的。その他、委員会や学年・分掌会など日常業務をメンバーや関係部署と共有。スタッフ不足で時間外業務に及ぶことが課題で業務の精選が必要。</p>	◎

【資質向上】	(1)学校課題に即した研修や職員の負担の少ない研修の実施に取り組む ①ICTを活用した校内研修の実施 ❶校内研修参加率 80%以上	(1)①キガスクールサポーターの活用で ICT に特化した研修は未実施。人権やハラスメント・コンプライアンス等は実施。その際分掌・学年単位で研修し時間を柔軟化。人権プラザで部落差別に係る研修参加。全体研修が少なく参加率は算出不能。	※
【地域社会との連携】	(1)朝明高校の良いところや生徒の様子、卒業後の姿を伝える取組の推進、広報活動の強化 ①高校生活入門講座の参加者数増 ②マスコミや HP 等を通じた情報発信の推進 (2)ふくし科や部活動など本校の強みを活かした地域連携や交流活動の推進 ①インターンシップや実習、交流活動等を核に地域の事業所等との連携を推進する ②地域の小中学校、特別支援学校との交流や出前授業の実施 ③地域行事等への生徒・職員の参画(年 5 回以上)	(1)①10/14 開催 参加者数は若干減少。 ②HP 更新 57 回、FM 三重取材、セーフティバースクールリーダー・花園出場等新聞掲載。 (2)①コロナ5類移行後、事業所での実習、高齢者施設交流活動が本格再開。 ②地域の学校や保々地区敬老福祉会・人権にふくし科生徒と吹奏楽部参加や 2 月の保々地区人権行事でふくし科生徒が手話歌を発表。③ボランティア部を含め、ふくし科生徒は地域行事への参画がある一方で普通科の参画が少ない。	※
【教職員の働きやすい環境づくり】	(1)総勤務時間の縮減に向けた取組 ❶時間外労働時間：月平均 9.0 時間以下 ❷月 45 時間超の時間外労働者の延べ人数：0 人 ❸年 360 時間超の時間外労働者の人数：0 人 ❹休暇取得日数：10 日/年以上（全教職員） ①定時退校日：月 1 日設定・定時退校率 90%以上 ②会議時間の短縮：60 分以内の放課後会議の割合 90%以上 ③部活動休養日：計画通り休養日を実施できた部活動の割合 90%以上 (2)信頼される学校づくり ①「信頼される学校であるための行動計画」の見直し・改善 ②コンプライアンス研修の開催：年 2 回以上	(1)❶25.3)時間、(内 9 人が45/月以上) ❷106 人 延べ人数の約 24%に相当 ❸14 人/40 人。多いと言わざるを得ない。 ❹2人が未達成(3/26現在)、また15日以下が11人。 ①定時退校は毎月設定(各自設定を含)定時退校率は実態として 90%を下回る。 ②60分を超える会議は 90%未満。超えても30分以内。③ほぼ計画通りの休養日。ただ週休日の休養日設定ではない。 (2)①信頼向上委員会は企画委員会と兼ね、必要時に協議。年度末に校長が「行動計画」の見直しを行い職員に周知。 ②分掌・学年毎で 2 回実施	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ただでさえ多忙な学校現場で教員未充足では一人当たりの負担増で慢性的時間外労働状況が改善されない。 ・教員定数が毎年減少するなかで分掌・担任業務の精選を進める必要がある。 			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力の向上に向けての取組を推進しており、礼儀を重んじ、社会規範の順守・挨拶の励行・正しい言葉遣いの指導が浸透してきており、生徒の挨拶や身だしなみも気持ちよく、朝明高校の評価は向上してきている。引き続き継続的に取り組んでいただきたい。 ・ふくし科の「手話歌」披露は地域のまちづくりへの参画であり、地域の学校としての存在感を高める良い機会である。今後は、地域福祉に貢献できる知識・技能及び行動力を身につけて「社会に貢献できる人」の育成に向けて、継続的に取り組んでいただきたい。 ・福祉の仕事内容に関心を持ってもらえるよう、実習やボランティアに参加することを継続し、福祉職の待遇面を知って就職した後のことを具体的に想像できるようにして、仕事としての福祉に対するイメージを具体的にすることも必要。 ・自転車について、飛び出しや右側通行などの危ない場面もあることから、交通ルールについての教育が必要である。 ・中学生やその保護者に「朝明高校が良い学校である。」という事が伝わっていないことが非常に残念な思いである。引き続き情報発信が必要。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・生徒の良い所を褒めて伸ばし、自信や自己肯定感の向上に繋げる教育活動や生徒指導の推進。・継続的な授業内容の改善、ツールや手法の見直しを図る。・地域連携、地域資源の活用。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・職員の定数減を前提とした業務見直しの推進及び時間外労働等過重労働の一部職員への偏りを是正し、働き方改革を推進する。・学校や生徒の「生の姿」をどう伝えていくか工夫することが必要である。